

平成 28 年 8 月 25 日

文部科学大臣 松野 博一 殿

公益財団法人日本野鳥の会

理事長 佐藤 仁志

特定非営利活動法人サロベツ・エコ・ネットワーク

代表理事 高瀬 清 (公印省略)

天然記念物 (タンチョウ、オジロワシ、オオワシ、ヒシクイ、マガン)
の生息地における大規模風力発電事業計画について

天然記念物をはじめとする、希少鳥類の保護につきましては、日頃よりご尽力いただき、誠にありがとうございます。

このたび、オジロワシなど天然記念物に指定されている希少な鳥類が多数生息する、北海道北部の道北地方において、(株)道北エナジーによる集中した風力発電事業計画(増幌・勇知・樺岡・芦川・川西・川南・豊富山)が進んでいることが明らかとなりました。その数は230基を超えており、設置予定場所も集中しています。道北地域にはすでに172基の風車が設置されており、この限られた地域に風力発電施設が集中して建設されれば、天然記念物指定種のバードストライクや、渡り経路の変更等による攪乱など、重大な影響が予測されます。その証拠に、これまでに北海道で風車に衝突して死亡したオジロワシは、少なくとも45羽に及んでいます。

また、このような大規模な開発行為は、文化財保護法第二百五条に規定された「天然記念物の現状を変更しその保存に影響を及ぼす行為」であるとも考えられます。

文部科学省におかれましては、天然記念物指定種の保護の観点から、このような危機的状況の実態把握を行うと共に、事業者等に対し適切な対応をいただきますよう、資料を添えて要望いたします。

(連絡先)

141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

(公財)日本野鳥の会 自然保護室

浦 達也

電話 : 03-5436-2633/eメール : ura@wbsj.org

【参考資料】

利尻礼文サロベツ国立公園を中心とする宗谷地域は、5種の天然記念物（タンチョウ・オジロワシ・オオワシ・ヒシクイ・マガン）の重要な生息地および渡りのコースとなっており、ラムサール条約登録湿地や重要野鳥生息地（IBA）にも登録されています。また、これらの鳥類は環境省がレッドデータブックに選定している絶滅危惧種でもあります。

現在、北海道北部の道北地方（宗谷総合振興局・留萌振興局管内に相当）には、留萌市・小平町・苫前町・遠別町・天塩町・幌延町・稚内市・浜頓別町・猿払村・利尻町の10市町村27カ所に、約172基の風力発電用風車が設置されています（2012年3月、NEDO調べ）。

このような、野生生物にとって重要な地域における風力発電事業の集中は、バードストライクやバットストライク、渡り経路の変更による攪乱等が予測されるほか、景観の悪化等による観光産業への悪影響の恐れもあります。

特に、現在環境影響評価の手続きが行われている、増幌・樺岡・川西・川南・勇知・芦川・豊富山の7つの地区における、道北エナジーが計画している新設計画は、その範囲が広範囲に及び、風車も231基が計画されています。

渡り鳥の重要な経路や生息地において、これほど多くの風力発電施設が集中する事例は、世界的にも極めて稀であり、国際的にもゾーニングを含めた慎重な検討が求められる状況にあります。

これらの点を踏まえ、文化財保護の観点から、事業者等への適切な指導を要望するものです。

以下に、宗谷地域における天然記念物指定鳥類種の状況と、風力発電事業による影響予測について述べます。

(1) タンチョウ

宗谷地域では近年、特別天然記念物指定種タンチョウの繁殖が確認されるようになり、繁殖つがい数が増加傾向にあります。本種はこれまで、道東地域に集中していましたが、生息地分散の観点等から、当地域の重要性が増しています。

一方、採餌場所への移動や渡り時に、増幌・川西・川南風力発電事業予定地周辺上空で姿が確認されています。当地域における風力発電事業の集中により、タンチョウの風車への衝突、移動阻害等の悪影響が予測されます。

(2) オジロワシ・オオワシ

宗谷地域全域は、オジロワシ・オオワシの越冬地となっています。中でも宗

谷岬は、オジロワシ・オオワシの主要な渡り経路であり、ボトルネックに当たる場所であるため、多くの個体が集中します。

このような状況から、宗谷岬に近い風力発電事業予定地すべてにおいて、バードストライク等のリスクがあります。

中でも、勇知風力発電事業予定地の海岸沿は、冬期のオジロワシ・オオワシの主要な移動経路に当たり、風車への高い衝突率が予測されます。

一方、増幌・樺岡風力発電事業予定地周辺は、冬期のオジロワシ・オオワシの主要な採餌場とねぐらがあるため、風車への高い衝突率が予測されます。

当地域全域には、冬季に渡ってくる個体群の他に、周年生息し繁殖するオジロワシがいます。風力発電事業者は、風力発電施設を繁殖地から 500m 以上離すとしていますが、半径数 km もあるオジロワシの繁殖期の行動圏から外れる場所は少なく、風車への高い衝突率と、移動時の風車の回避による繁殖への悪影響が予測されます。

(3) ヒシクイ・マガン

宗谷地域は、日本とシベリア間を渡るヒシクイ(5千羽)・マガン(4万羽)の国際的な中継地で、ボトルネックの場所となっており、風力発電事業予定地全域を渡り経路として利用しています。

中でも、川西・樺岡・増幌風力発電事業予定地は、両種の主要な渡り経路になっていることが、これまでの調査から明らかになっています。

当地域における風力発電事業は、ガン類の渡り経路のほとんどを塞いでしまうほどの規模で集中して計画されており、両種の風車への衝突、渡りの阻害等が予測されます。そして、中継地が変更されてしまうといった最悪のケースも考えられます。

近年、マガンの個体数は増加傾向にあり、中継地の重要性が増していることから、大きな影響が懸念されます。

なお、現状ではヒシクイやマガンの渡りの実態が十分に解明されていないため、今後の調査結果によっては、より大きな影響が予測される可能性があります。

以上